

STOP! 精神医療センター富谷移転、  
2・23 みやぎユーザーズアクション

“声なき声と共に”

# Action News

アクションニュース

vol.031

2023.10.20

【毎週金曜日発行】

stop.iten0223@gmail.com



「この問題は、  
ブロックされるべき」

地域に根差した精神保健福祉改革について考えるシンポジウム

仙南ネットと共に名取市長と懇談...P2

「当事者の声を聴くべき」とWHOミシェル・ファンク博士...P3

Nothing about us without us!

私たち抜きに私たちのことを決めるな!



facebook



名取市山田市長と懇談

### 名取市役所にて懇談

#### 山田市長は賛成の立場崩さず

令和5年10月18日(水)に名取市役所において、仙南ネットワーク(代表小泉 潤)の3名とユーザーズアクションから1名の4人で山田司郎名取市長と懇談をしました。

懇談の内容は、まず、仙南ネットワーク、ユーザーズアクションの側から県立精神医療センターの移転や民間の精神科病院の誘致の公募についての多くの問題点が説明され、名取市としてきちんとこのような問題があるということを県に伝えて欲しい旨が話されました。それに対して、山田市長は問題がいろいろある点、また患者、当事者が不安を抱えていることなどについては県に伝えていくと話した反面、仙台赤十字病院と県立がんセンターが統合

して新病院が名取市に来ることに関してはあくまで賛成の立場であるということを話し、これまでの姿勢は崩さず、逆に明言をするという形になりました。

山田市長は民間の精神科病院の公募については県に対して何か発言をする立場にはないということを説明し

ていましたが、県立精神医療センターに通院する患者や周辺のグループホームで暮らしている人など少なくない方々が名取市民であるという事実には触れることがありませんでした。

どこか他人事であり、何か名取市民を代表する立場として市民の生命や暮らし、生活を守る責任があるといった気概を感じることができなかったのはとても残念であり、どこか失望感を持たずにはられませんでした。

### 「当事者の声、聞くべき」と ミシェル・ファンク博士

10月18日(水)に仙台弁護士会館において、シンポジウムが開催され、「地域に根差した精神保健福祉改革について考えるシンポジウム」と題してミシェル・ファンク博士による記念講演が行われました。ファンク博

士はWHOの精神保健福祉法制度・政策ユニットの責任者であり、障害者権利条約の考えをもとに、精神疾患を持つ人々の強制収容の問題、意思決定の問題、差別や偏見の問題、またどのようにわれわれの意識を変えて行けばよいのかなど様々な提言をしました。

ファンク博士が常に強調していたことは、その当の人自身を中心に置くことであり、その中から物事が考えられていかなければならないとし。そして、そうでなければ精神疾患を持つ人々が抱えている諸課題の解決には繋がらないであろうとの見解を述べました。

ファンク博士の講演の後、座談会という形で弁護士、医師、福祉支援者、当事者の立場からそれぞれのシンポジストが自身の経験や体験をもとに自らの考えを話していました。

ファンク博士は折にふれて自らの見解、意見を述べて、人権や当事者の経験を大切にする事の重要性を訴えていました。

シンポジストとしてユーザーズアクションの共同代表である川村有紀が今回の座談会に参加したのですが、県立精神医

## 「当事者の声を聴くべき」と WHO ミシェル・ファンク博士

療センターの移転計画についての意見をファンク博士に求める場面がありました。ファンク博士は村井知事や県が行って来た経緯を知った上で、このような当事者抜きのトップダウン的な政策はやめるべきだし、ブロックする問題だと明確に答えました。それはファンク博士が当事者の生きて来た体験そのものが財産であり、その中にしか答えが存在しないという明確なコンセプトを持っていることを表しているのであり、この発言はその下での最終的な結論であると言えるでしょう。このファンク博士の発言に対して、ユーズアズアクションとしても真摯に受け止める必要があるのと同時に、われわれがなぜ反対運動をするのか、いったい誰のための運動なのか、常にこれらのことを胸の中に置きながら、活動していかなければならないと考えるのです。

### ファンク博士へ ユーズアズアクションから

2023年10月17日

親愛なるミシェル・ファンク様へ

われわれ一同、ミシェル様が日本に来てくださったことをと

ても喜んでいるとともに、日本で元気で過ごされていること、また楽しい時間をお持ちになっていることを心から願っている次第であります。

われわれは、みやぎユーズアズアクションという当事者団体であり、宮城県立精神医療センターの移転計画に異議を唱え、そのための活動をしています。この計画は名取市にある精神医療センターを富谷市に東北労災病院と共に移転し、集約するというものです。名取市は宮城県の南の方に位置し、富谷市は宮城県のちょうど真ん中にあるという関係にあります。

しかしながら、この移転計画には数多くの問題点というものがあるのです。村井嘉浩宮城県知事と県はこの病院を利用している患者にさえ計画についてどのように思っているか聞き取ることなく強引に進めて来ています。

県立精神医療センターは名取市周辺を中心とする地域包括ケアシステムを長年かけて形づくってきた病院です。そして、医療センターの周辺にあるグループホーム、作業所、支援事業所など様々な関連施設は病院ととても強い結びつきがあるのです。ですので、われわれは宮城県の南

で展開している地域包括ケアシステムが壊されてしまうのではないかととても深刻に憂慮している次第であります。

この問題に関してミシェル様の考え、ご意見を伺えれば、とても幸いです。そしてそれに加えて、10月18日に仙台で行われるシンポジウムにおきまして、この計画について何かご発言されることをわれわれとしては切に願っている次第であります。当日お会いできることをとても楽しみにしております。

敬具

みやぎユーズアズアクション実行委員

原田 幸一

